

- 問1 中央高地の気候において、年間の降水量が少なく、夏と冬の気温差が大きくなる理由として最も適切な説明はどれですか。 (2018年 群馬県公立入試 類似)
1. 北西の季節風が日本海から水分を運んでくるが、高い山脈を越える際に雪を降らせた後の乾燥した空気が流れ込むため
 2. 標高が非常に高いため、年間を通じて気温が低く抑えられ、上昇気流が発生しにくく雨が降らないため
 3. 周囲を高い山々に囲まれており、海からの湿った空気がさえぎられるとともに、内陸のため海洋の影響を受けにくい
 4. 暖流の影響を強く受ける地域であり、夏は高温多湿になるが、冬は乾いた季節風の影響を強く受けるため
- 問2 福井県鯖江市を中心に発展した「眼鏡のフレーム」製造の産業的な特徴や背景について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2019年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 豊かな森林資源と水資源を背景とした地場産業であり、環境規制の強化に伴いハイテク産業へと転換した。
 2. 大規模な海外資本の工場が誘致されたことで急速に発展し、現在は全工程を一つの巨大工場で一貫生産している。
 3. 冬の積雪期における農家の副業として始まり、現在は多くの小規模な工場が工程を分担する分業体制によって支えられている。
 4. 京都の伝統的な工芸技術が北陸地方に伝わったもので、貴族や寺社向けの高級品として生産が始まった。
- 問3 北陸地方に位置する福井県について、地理的特徴や近年の変化を説明した文として最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2016年 長野県公立入試 類似)
1. 北陸地方の東端に位置しており、関東地方と接しているため古くから新幹線が整備されていた。
 2. 北陸地方の西部に位置しており、北陸新幹線の延伸によって首都圏との所要時間が短縮された。
 3. 中部地方ではなく近畿地方に属しており、大阪や京都とのつながりはあるが北陸地方とは交流が少ない。
 4. 日本海沿いではなく内陸部に位置しているため、北陸新幹線のルートからは外れている。
- 問4 中部地方の内陸部に位置するある県では、農産物の収穫量において米が約2万7000トンであるのに対し、ブドウが約4万3000トンに達するなど、果樹栽培が極めて盛んです。ブドウの生産量が日本一であるこの県はどこですか。 (2020年 愛媛県公立入試 類似)
1. 山梨県
 2. 山形県
 3. 青森県
 4. 長野県
- 問5 河川が山地から平野や盆地に出た場所では、流れが緩やかになることで運搬されてきた土砂が堆積し、扇形の地形が形成されます。山梨県の甲府盆地の縁などで多く見られる、このような地形の名称として正しいものを答えてください。 (2018年 群馬県公立入試 類似)
1. 三角州
 2. 台地
 3. カルデラ
 4. 扇状地
- 問6 静岡県を中心に、京浜工業地帯と中京工業地帯の間に位置する工業地域について、その特徴を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2023年 香川県公立入試 類似)
1. 出版・印刷などの都市型工業の割合が高く、かつては日本最大の工業出荷額を誇っていた。
 2. 内陸部に高速道路網を活用した工業団地が形成され、近年では医薬品や情報通信機器の製造が伸びている。
 3. 輸送用機械の割合が極めて高く、オートバイや楽器、自動車関連の工場が数多く立地している。
 4. 鉄鋼業や石油化学コンビナートが発達しており、原材料の輸入に便利な臨海部に重化学工業が集中している。
- 問7 北陸地方の工業について述べた次の文の空欄にあてはまるものとして、最も適切な語句を答えてください。「中部地方の日本海側に位置する福井県では、県北部の嶺北地方を中心に地場産業が発達している。特に鯖江市周辺では、明治時代に農閑期の副業として始まった（ ）の製造が、現在では国内シェアの約9割を占めるまでに成長している。」 (2019年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 眼鏡のフレーム
 2. 西陣織
 3. パルプ・紙
 4. 陶磁器
- 問8 中部地方の太平洋沿岸部で行われている、温室やビニールハウスを活用した「施設園芸農業」の利点について、その背景や目的を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2022年 山口県公立入試 類似)
1. 大消費地に近い立地を活かして、収穫したばかりの鮮度が高い野菜を、輸送コストを抑えて市場へ届けることができる。
 2. 広大な土地に大規模な機械を導入することで、土地の単位面積あたりの収穫量を増やし、穀物を大量生産できる。
 3. 高冷地の冷涼な夏の気候を活かして、他の地域よりも収穫の時期をあえて遅らせることで、競合を避けて高い価格で販売できる。
 4. 自然環境の影響を抑え、気温や湿度を管理することで、季節を問わず計画的に作物を生産・出荷できる。
- 問9 北陸地方は日本海側に位置し、冬には季節風の影響で非常に多くの降雪量が見られます。このような自然環境のもとで、江戸時代以来の伝統技術や地元の原材料を活用した産業が発達した背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2019年 滋賀県公立入試 類似)
1. 広大な平野部において、冬でも温暖な気候を活かした二毛作が行われ、その加工品製造が広まった
 2. 豊富な雪解け水を工業用水として活用するため、冬の期間に限定して大規模な化学工業が行われた
 3. 冬の間は積雪により農作業が困難になるため、農家の副業として手仕事による工業が盛んになった
 4. 冬の強い季節風をエネルギー源とした大規模な機械工業が、江戸時代から沿岸部で発達した
- 問10 長野県などの高冷地では、レタスの収穫時期をあえて6月から10月の夏季に集中させています。平地の収穫量が減少するこの時期に出荷時期をずらす最大の目的として、最も適切な説明はどれか、選びなさい。 (2016年 岐阜県公立入試 類似)
1. 他の産地との競争を避け、需要が高まる時期に高い価格で販売するため
 2. 冬の積雪による農作業の停止を防ぎ、年間通じて安定した収入を得るため
 3. 化学肥料の使用を抑えた環境に優しい農法をアピールするため
 4. 大都市に近い利点を活かし、輸送コストを抑えて新鮮なうちに届けるため
- 問11 四日市市などの工業都市を擁する三重県の工業的特徴について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2017年 愛知県公立入試 類似)
1. 輸送用機械や化学、石油・石炭製品などの重化学工業が中心となって発展している。
 2. 出荷額において、パンや清涼飲料水などの食料品工業が最大の割合を占めている。
 3. 伝統的な繊維工業が、現在でも県全体の工業出荷額の過半数を占めている。
 4. 高度な技術を要する印刷業が、重化学工業の出荷額を上回る規模で成長している。
- 問12 日本の本州中部において、日本海側に面しており、戦国時代には上杉謙信が拠点としたことで知られ、現在は越後平野を中心に米の生産が非常に盛んな都道府県はどこか。 (2021年 北海道公立入試 類似)
1. 埼玉県
 2. 長野県
 3. 新潟県
 4. 富山県

答え合わせ・解説

問1	答え 3 周囲を高い山々に囲まれており、海からの湿った空気がさえぎられるとともに、内陸のため海洋の影響を受けにくい	中央高地は四方を山々に囲まれた盆地状の地形が多く、海から吹いてくる湿った風が山を越える際に斜面で雨を降らせてしまうため、盆地内部には乾燥した空気が流れ込み、降水量が少なくなります。また、海から離れているため、温度が変化しにくい海水の影響を受けにくく、地面の温度変化が直接気温に反映されるため、気温の変動（気温差）が大きくなります。
問2	答え 3 冬の積雪期における農家の副業として始まり、現在は多くの小規模な工場が工程を分担する分業体制によって支えられている。	鯖江の眼鏡産業は、雪深い冬の時期に収入を得るための副業として始まりました。この産業の特徴は、一つの製品を完成させるために、部品作り、研磨、メッキ、組み立てといった各工程を専門の工場が担当する「分業体制」が確立されている点にあります。この仕組みにより、職人の高度な技術を維持しながら効率的な生産が可能になっています。
問3	答え 2 北陸地方の西部に位置しており、北陸新幹線の延伸によって首都圏との所要時間が短縮された。	福井県は北陸地方の西側に位置し、経済・文化的に関西圏との結びつきも強い県ですが、行政や学習上の区分では北陸地方（中部地方）に含まれます。2024年3月の北陸新幹線・金沢駅－敦賀駅間の延伸開業により、福井県内から乗り換えなしで東京方面へ向かうことが可能になり、時間短縮による観光客の増加や経済効果が期待されています。
問4	答え 1 山梨県	中央高地に位置する山梨県は、周囲を高い山々に囲まれた盆地が広がっています。降水量が少なく日照時間が長いという内陸部特有の気候に加え、甲府盆地の縁に広がる水はけの良い地形を利用することで、米よりも付加価値の高いブドウやモモなどの果樹栽培が発展しました。
問5	答え 4 扇状地	川が急峻な山地から平坦な土地へと流れ出る際、流速が落ちることで土砂が堆積して「扇状地」が作られます。この地形は等高線が山側を頂点として扇形に広がっているのが特徴で、山梨県などの盆地の境界付近によく見られます。
問6	答え 3 輸送用機械の割合が極めて高く、オートバイや楽器、自動車関連の工場が数多く立地している。	静岡県を中心とする東海工業地域は、中京工業地帯の影響を強く受け、オートバイや自動車などの輸送用機械を中心とした機械工業が非常に盛んです。もともと浜松周辺で盛んだった綿織物業の技術が、自動織機からオートバイ、楽器製造へと発展した歴史的背景があります。選択肢にある重化学工業主体の記述は瀬戸内工業地域や京葉工業地域、都市型工業は京浜工業地帯、内陸部の工業団地は北関東工業地域の特徴です。
問7	答え 1 眼鏡のフレーム	福井県の鯖江市は、日本国内で生産される眼鏡のフレームの大部分を製造する日本最大の産地です。明治時代に、冬の積雪で外仕事ができない時期の副業として始まったものが、後に技術革新を重ねて世界的なブランドを支える一大産業へと発展しました。
問8	答え 4 自然環境の影響を抑え、気温や湿度を管理することで、季節を問わず計画的に作物を生産・出荷できる。	施設園芸農業の最大の目的は、建物によって内部の環境をコントロールすることにあります。これにより、本来の生育時期ではない季節に栽培したり、天候不順による被害を防いだりすることが可能になり、市場の需要に合わせて安定的に出荷できるようになります。選択肢にある「都市に近い立地を活かす」ものは近郊農業、「収穫時期を遅らせる」ものは抑制栽培の特徴を説明したものです。
問9	答え 3 冬の間は積雪により農作業が困難になるため、農家の副業として手仕事による工業が盛んになった	北陸地方は冬に湿った北西の季節風が山脈にぶつかすることで、世界的な豪雪地帯となります。冬の間は積雪によって屋外での農作業ができなくなるため、農家の人々が収入を得るための副業として、室内で行える伝統技術を用いた地場産業が発達しました。
問10	答え 1 他の産地との競争を避け、需要が高まる時期に高い価格で販売するため	夏の平地は気温が高すぎてレタスなどの生育に適しません。その時期に涼しい高原で栽培して出荷することで、市場に出回る量が少ない「品薄」の状態を狙い、有利な価格で取引することを目的としています。これを「抑制栽培」と呼びます。
問11	答え 1 輸送用機械や化学、石油・石炭製品などの重化学工業が中心となって発展している。	三重県の工業は伊勢湾沿岸を中心に発達しており、特に四日市市の石油化学コンビナートや、鈴鹿市などの自動車産業が県内の経済を支えています。これらは重化学工業に分類され、製造品出荷額においても輸送用機械、化学、石油・石炭製品の順に高い割合を示しており、食料品や印刷といった軽工業分野に比べて圧倒的な規模を誇ります。
問12	答え 3 新潟県	越後平野は日本有数の稲作地帯であり、この平野を抱える新潟県は米の生産量が全国トップクラスです。また、戦国時代には上杉謙信がこの地を治めていました。選択肢にある長野県と埼玉県は内陸県であり、富山県は新潟県の隣に位置しますが越後平野は含みません。